

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わくわくクラブ エース（新松戸校）・放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		2024年1月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 53
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		2024年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性や課題に応じたプログラムの提供 子どもや保護者のニーズを組み込んだプログラムの作成 固定化されないような工夫をしてのプログラム作成 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の特性や興味関心を理解した上でのプログラムを作成している 児童が取り組みやすい題材や声掛けを工夫して実施している プログラムが固定化しないよう、アレンジを加えている 同じテーマでも、児童ごとに課題や目標値を設定して支援している 児童の心身の状況に応じて調整するなど柔軟な対応をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も児童理解に努め、特性や課題に応じたプログラムを作成し実施していく 児童・保護者のニーズに応じた支援内容の設定・実践に努める 職員の専門性を高め、支援の質を高めていく
2	<ul style="list-style-type: none"> 活動スペースの確保 心地よく過ごせる環境、空間の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 人数やメンバー活動内容に応じて、スペースを分けて過ごしている 複数の部屋をその都度最大限に活用して支援を実施している 清掃や消毒等、児童も保護者も安心できる環境設定を心がけている 	<ul style="list-style-type: none"> 人数やメンバー活動内容に応じて、最大限に部屋や空間を活用して支援をしていく 児童にも保護者にも清潔感や安心感を持って過ごしてもらえる環境設定を引き続き実施する
3	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心して過ごせる場所 来室を楽しみにできる場所 	<ul style="list-style-type: none"> ここであれば、気心の知れた先生や友だちがいれば苦手な事にも挑戦でき少しぐらい失敗しても大丈夫と思えるような環境と雰囲気作りを大事にしている 小さなトラブルもそのままにせず、指導員が見守りフォローできる状況を作っている 送迎がない分、活動と合わせて楽しめる（遊びや玩具の充実）ことを意識して用意している 	<ul style="list-style-type: none"> あたたかく楽しい雰囲気の中、児童がのびのびと過ごせるよう引き続き安心できる事業所を目指していく 活動プログラムの充実はもちろん、自由遊びの時間をSSTの実践の場として捉え、指導員が見守り支援していく 興味の幅を広げられるような教材・遊びや玩具の充実を図り、来室を楽しみにしてもらえるよう整えていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子ども達との交流ができていない状況 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内で過ごすことが多いため児童館や放課後児童クラブの児童との関わり、地域の子どもの交流は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休みの時などに事業所を出ておこなう活動を増やしていき、地域や社会に触れる機会を多くしていけるように努める ボランティアや他事業所との交流の機会など、児童の活動の場が広げられるよう努めていく
2	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士の交流の機会やきょうだい児同士の交流などの機会はあまり設けられていない 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍以降、わくわくカフェ等の保護者同士の交流会や研修の機会があまり設けられていなかった 仕事をしている保護者も多く、日程の設定等難しく感じている きょうだい児については、まだ要望がつかめていないためニーズを確認するところから始める 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数からも交流の機会を多く持てるよう日程を多く設けていく きょうだい児の支援について、送迎時や面談の際にニーズを確認していく
3	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の対応、安全計画など保護者への周知が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 特に利用を開始して間もない保護者に対しての周知が不足している 契約時以降、避難訓練実施前後に情報共有の仕方がわかりにくく周知出来ていない 周知の機会も少ないと思われる 	<ul style="list-style-type: none"> 契約時の説明を丁寧におこなうようにする 定期的な説明や周知の機会を増やしていく 書面での掲示や配布の機会も増やしていく